

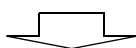
《あきた型学校評価シート2》

令和7年度 県立ゆり支援学校

評価領域	教育課程
------	------

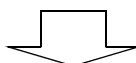
重点目標	職業教育を核とし、学びの連続性を重視した教育課程の改善	
↓		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育全体計画を基に、各学部における職業教育及びキャリア教育の充実を図っている。しかし、学部間連携が不十分である。 ・生徒の思いや願いを基に「未来へのスケッチ」を生徒と教員が対話をしながら作成し、保護者とも連携しながら定期的な評価や見直し等を行っている。 ・「未来へのスケッチ」を授業づくりに生かし、生徒の思いや願いを大切にした児童生徒主体の授業実践に努めている。 	P
↓		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職業教育との関連性を意識した学部間連携の在り方を検討し、教育課程の改善を図る。 ・学びの連続性を図るため「未来へのスケッチ」を活用した授業づくりを行う。 	
↓		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・職域拡大・職場定着促進事業を活用しながら、職業教育の充実について協議する場を設定する。 ・教育課程改善の視点を検討するため、外部講師による職員研修を実施する。 ・未来へのスケッチを元にした、全校授業研究会の実施する。 ・計画的な学部間作業学習交流や学部見学を学習活動に取り入れる。 	
↓		
取組状況	<ol style="list-style-type: none"> ①従来の企画運営委員会や教育課程検討委員会と併せて「職業教育充実促進検討会」を実施し、中学部・高等部連携による職業教育の充実に向けた方策について検討した。 ②12月に全校授業研究会（高等部）を実施し、全校職員で職業教育の充実について協議を行った。また、指導助言者による研修会も実施した。 ③2学期以降、小学部から高等部まで学部を超えた授業参観や作業学習交流を実施した。また、職域拡大推進員による生徒・保護者への学習会等を行い、主体的な進路選択等への意欲付けを図った。 	D

達成状況	<p>①「職業教育に関する学習について」をテーマにして、各学部内外での取組について実践事例を共有した。特に「学びの連続性」についての協議において、未来へのスケッチをツールとして学びの履歴をしっかりとつなげいくことが大切であることを確認した。</p> <p>②協議や指導助言者の秋田大学大学院前原教授の研修から、「交流活動を通して学びをつなげること」「『学校生活を人生の一部』として捉える指導観をもつこと」「『職業準備性』を指標とした指導」「『自己決定』を支えるスキルを身に付ける指導」の必要性等、職業教育の充実に向けた教育課程改善の視点を獲得することができた。</p> <p>③学習会等の実施を通して、職業観や企業が求める力、社会人としての基本姿勢について具体的に学び、生徒・保護者・職員間で家庭・学校生活において身に付ける必要のある力等について教員間で共有できた</p>	
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--



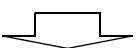
自己評価	(根拠)	C
(評価) A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの「職業教育を核とし、学びの連続性を重視した教育課程の改善」の項目で、ほとんどの職員が「十分できている」「ほぼできている」と評価している。 計画的・系統的な校内交流（学年間・学部間交流）活動を各学部経営の重点に位置付けることを教育課程検討委員会等で決定。 	

評価基準



- AA：具体的な活動がなされ目標を達成できた
- B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
- C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会委員を対象に行ったアンケートの「児童生徒が自立する力を育むための教育活動の充実を図っている」の項目でA（よい）+ B（だいたいよい）で100%の評価であった。 同アンケートより、「学校内においての学部をまたがったの交流なども素晴らしいと思われる」「授業参観等で児童生徒の成長が感じられ、学校のねらいとするところが達成されていると思う」という意見をいただいている。 	C
(評価) A		



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営の重点に学部間交流の充実を図ることを取り入れ、学びの連続性を図る。 職業教育の視点を取り入れたキャリア教育全体計画の改訂とそれを元にした教育課程の編成を図る。 本校のキャリアパスポート「未来へのスケッチ」を活用し、児童生徒が主体的に取り組むための授業づくりを展開する。 	A
-----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---